

図書館だより

埼玉県立図書館

第 50 号

平成 3 年 12 月 1 日

編集 埼玉県立図書館

広報委員会

発行 埼玉県立浦和図書館

館長 新井 一久

浦和市高砂 3-1-22

電話 048 (829) 2821

《埼玉の野鳥》

(主な内容)

- 冬鳥「ジョウビタキ」(小杉昭光) (1)
- 埼玉県の野鳥(池谷泰文) (2~3)
- 学校における野鳥をはじめとした自然保護教育 (4)
- 本のひろば (5~6)
- 12月~2月の主な催し物 (7)
- バードウォッチング・イン・埼玉 (8)



ジョウビタキ(雄) 小杉昭光氏提供

冬鳥「ジョウビタキ」

小杉 昭 光

今年もわが家の庭にジョウビタキ(写真の小鳥)が現れる季節が巡ってきた。この鳥は鳴声がヒッヒッカッカッと火打石を叩く音に似ているのでヒタキといわれ、さらに能楽の翁(う)のように雄の頭部が白いことからジョウビタキと名附けられたといわれている。本県では翼の白斑から紋附鳥とか団子シヨイ、鳴声からヒッカタ等の別名も使われている。この鳥は中国東北部やアムール地方で繁殖し、日本には秋に渡来し越冬する渡り鳥である。各地の河原、村落、市街地の公園、住宅地の庭等に姿を現すごく普通の冬鳥で、木の枝上や地上で尾を振りながら昆虫や雑草の種子等をついばんでいる。

この小さな体でよく広い海を越えて渡来すると思うが、多くの犠牲を払いながら鳥類は何故渡りをするのだろうか。渡りの季節の到来や飛行の方角、経路等はどのようにして知るのだろうか。諸説はあるが未だに多くの謎を秘めた鳥の渡りは、自然界の大きな不思議の一つである。

(女子聖学院短期大学講師)

2012345678913012345

埼玉の野鳥

池谷奉文

埼玉県は、面積三七九九km²、全国で八番目に小さな県で、関東平野西南部の内陸に位置している。東西に長いサツマイモ型をした西側には、標高五〇〇〜二五〇〇m程の秩父山地が連なり、利根川、江戸川に接する東側は沖積低地が広がる西高東低の地形となっている。特に、東部の低湿地は、古来より水鳥の一大渡来地となっていたところで、埼玉県の野鳥たちの歴史的なドラマが展開された舞台となっていた。

一、埼玉県の野鳥の歴史

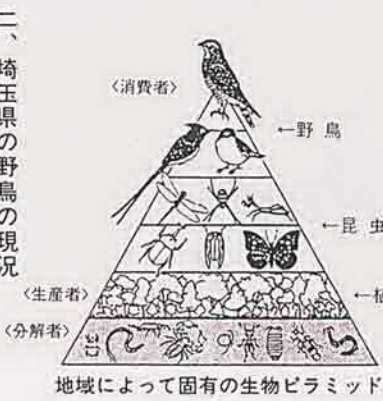
県東部の低湿地には多くの野鳥が生息していたため、江戸時代より、徳川家による鷹狩りが盛んに行なわれていたところであるが、大政奉還の後、明治政府によって、皇室のための遊獵場が北足立・南埼玉・北葛飾の三郡にまたがって設定されている。この後、皇族及び宮中接待者が鴨猟を行う場所として、現在の越谷市大林に宮内庁の埼玉鴨場が設置され、今日に至っている。ここには、

毎冬、約一〜二万羽のカモが渡来するといわれている。

もちろん、ガンやサギ類など大型の水禽類も多く、江戸時代の鷹狩絵巻には、獵果としてガンの他にマナヅルの姿も認められる。現在、マナヅルは、わが国では、九州の荒崎と中国、四国地方に少数が渡来するのみとなっている。狩猟統計として記録に残り始めた大正年間には、一冬に約九〇〇羽と全国で最も多くのガンが捕獲された記録がある。このことは、ガンの越冬環境が人が容易に近づけないような広大な池沼湿地や水田が必要であり、このような環境が現存したことを裏付けている。

現在では、埼玉県内で毎冬、一〜二羽が不定期に観察されるに過ぎない。サギ類については、享保年間より日光御成道沿いに大きなサギのコロニーが見られるようになり、江戸幕府が鳥見役をおいてこれを保護するようにになった。これが、後に国の特別天然記念物に指定された野田の鷺山である。最盛期には二万五千羽以

上が見られ、全国最大規模を誇ったが、農業問題や自然環境の喪失とともに、昭和四十六年を最後にサギのコロニーは失われてしまった。このように、埼玉県の野鳥の歴史は、絶滅の歴史であるといっても過言ではない。野鳥が安心して住める環境は、わたしたち人間にとっても、けっして住みよい環境ではなく、野鳥たちの生息種類数は、わたしたちの住環境のバロメーターであるといえる。



二、埼玉県の野鳥の現況
現在までに、埼玉県内で記録された県産鳥類は、一八目五六科三〇〇種にのぼっている。この数は、近隣の内陸県である栃木・群馬・山梨の各県と比べると最も多い。また、神奈川県よりもやや少ない程度で、海なし県である本県としては多くの種

数が記録されているといえる。自然環境は劣化しつつあるものの、バードウォッチングの人口の増加もあってか、年々その数は増加している。この内、埼玉県内で繁殖が確認されているものは一三六種である。

県内の野鳥の分布状況を見ると、低地帯（標高五〇m以下）、台地・丘陵帯（標高五〇〜二〇〇m）、低山帯（標高二〇〇〜八〇〇m）、山地帯（標高八〇〇〜一六〇〇m）、亜高山帯（標高一六〇〇m以上）によって、それぞれ、その鳥相が異なっている。

低地帯には、河川・池沼・低湿地、水田があって、県産鳥類種の約半数を占める水鳥類が生息している。一方、市街地も広がっており、このような環境に適応して住むことのできるスズメ・ムクドリ・キジバト・ハシブトガラス等の都市型鳥類が生息している。

台地・丘陵帯は、クヌギ・コナラ等の落葉広葉樹林の雑木林やアカマツ林におおわれていて、シジュウカラやエナガ等のカラ類、コゲラやアオゲラ等のキツツキ類が生息している。また、この地帯には、全国的にも希少なオオタカやサシバ、ツミ等のタカ類が繁殖している。

低山帯は、ほとんどがスギ・ヒノ

キの人工林とクリ・リョウブ・コナラ等の若い二次林が圧倒的に多い。このような環境には、夏鳥であるオオルリやキビタキ、センダイムシクイ等のヒタキ類がやってくる他、山間部の溪流では、カワガラスやヤマセミを見ることが出来る。

亜高山帯は、東京・山梨・長野の各都県境沿いにあり、コメツガ・シラビソ・オオシラビソ等の常緑針葉樹林からなる手付かずの原生林が残されている。コマドリやウソ、ホシガラス等、標高の低いところでは見ることのできない種類が生息している。

このように、それぞれが合った環境に、ちがった種類の野鳥が生活している。これは、自然界が「食う・食われる」という関係の食物連鎖でつながっていて、それぞれの環境に固有の生態系（生物ピラミッド、図参照）を形づくっているためである。しかも、どれも地域特性をもった多様な自然の一つであって、例えば、秩父に自然があれば、平野部にはいないというものではないことがわかるであろう。

三、埼玉県の野鳥の今後

埼玉県内の自然環境は、都市化の

波をうけ、年々、減少の一途を辿っている。これに伴い、県内の野鳥の分布も少しずつ変化をみせている。あるものは、ツルやガン、サギのように絶滅したりその数を減少させ、あるものは、都市型鳥類のように都市的環境に適応して、その分布域を拡大している。

分布を拡大している代表的な種類としては、イワツバメ・コゲラ・シラコバトを挙げることができる。

イワツバメは、市街地でよく見かけるツバメを一回り小さくしたツバメの仲間、尾に深い切れ込みはなく、腰の白色部が大変目立つ。以前は、秩父と飯能で繁殖していたが、一九七五年以降、入間、所沢、志木、熊谷、大宮、浦和とその分布域を広げ、一九八七年には三郷市で繁殖が確認された。これは、本来、山地の岩壁で繁殖していたものが、近年の建築物の変化と増加により、コンクリートのビルや高架橋に営巣するようになり、都市部に分布域を拡大したものと考えられている。

コゲラは、スズメ大の小さなキツツキで、以前は山地帯だけに普通に繁殖していたが、一九七〇年代には、台地・丘陵帯に進出し、一九八三年には、とうとう荒川を越えて、荒川



県民の鳥「シラコバト」

以来での繁殖が確認されるようになった。この確たる理由は、現在でもわかっていない。

シラコバトは、国の天然記念物であり、埼玉県の鳥としてもよく知られている。全国でも埼玉県を中心にした一部の地域にしか生息しておらず、その起源については不明な点が多い。最も数が減少したのは一九四八年で、その時は宮内庁の埼玉鴨場にわずか二〇羽を数えるのみとなった。その後、個体数が回復すると共に分布域を広げ、一九六〇年には越谷市内の中核を占めるようになり、一九六八年には隣の松伏町、吉川町でも見られるようになっていた。さらに、一九八〇年には県南東部と千葉県の一部にも生息するようになり、一九九一年には、北は熊谷市から南



著者プロフィール
いけや ともふみ

昭和17年静岡県御殿場市生まれ。昭和40年日本大学農獣医学部獣医学科卒業。埼玉医科大学在任。

財団法人埼玉県野鳥の会会長、日本鳥類保護団体協議会会長、埼玉県自然環境保全審議会委員、埼玉県自然史博物館協議会委員、ナショナルトラストを進める全国の会幹事、財団法人さいたま緑のトラスト協会理事、著書「ピクト・緑の都市革命」「埼玉の鳥やけものたち」「小鳥が元気になる本」等

学校における野鳥をはじめとした

自然保護教育

(財)埼玉県野鳥の会の取り組み

埼玉県は都市化の波を受け、身近な自然環境は年々失われていきます。それに伴い子供達の遊び場も少なくなり、都市の子供達が自分の町に欲しいものとしてあげているもののなかで、都市公園とは違った野原や林や小さい丘が上位(それぞれ二、三位)を占める状況となっています。いままで、どこにでもあった身近な自然環境がいかに少なくなっているかを物語る良い例といえます。このような身近な自然環境が減少していく中で、子供達に自然の仕組みを理解し、自然を大切にすることを学ぶための教育がますます重要になってきています。

このようなことから、埼玉県が現在実施している自然保護教育の一つに「野鳥とふれあう学校制度」があります。これは以前、「愛鳥モデル校」と呼んでいたもので、現在六十九校が指定を受けており、本会もこの制度に対し積極的に協力しています。たとえば、野鳥とふれあう学校のための活動マニュアルの作成及び配布をはじめ、児童生徒の自然観察指導

あるいは教職員やPTAを対象とした研修会への本会役員や職員派遣などを行なっています。この他にも、日頃から野鳥を校庭に呼ぶための施設や野鳥観察や研究の方法など活動全般についての相談などを受けたりしています。学校によっては、一年を通じて校庭の中庭にくる野鳥の観察をしたり、学校の周辺の野鳥観察マップを作ったりと地域に密着した活動も見られるようになりました。また、野鳥のためにヒマワリの種を栽培する学校もできました。



造成後のふれあいサンクチュアリ

このような各指定校の自主的な取り組みを受けて、校庭の中に野鳥をはじめとした多様な自然をありのまま学習するための「ふれあいサンクチュアリ」整備事業が埼玉県によってはじめられました。これは、校庭の一部を活用して自然保護教育の場を造るもので、次のような基本方針

のもとで、本会が造成指導にあたっています。

①池や湿地、草地や林地などなるべく多様な環境を設け、自然の状態にすること ②植栽植物の種類は、ホフアや芝生などの園芸種や外来種は使わず、エノキやハンノキ、クヌギやコナラといった学校の周辺にもともとある在来種とすること ③周辺の野鳥や昆虫が好む植物を植栽すること ④植物の植栽にあたっては、その種類が本来生育する環境条件の場所になるべく植栽すること ⑤すべてを人工的に造成せず、時間をかけて自然にやってくる動物植物の力を借りて完成させることなどです。言い換えれば、従来の学校緑化が造園修景的であるのに対して、この「ふれあいサンクチュアリ」の整備は、生き物が生息する空間(ピオトープ)を創出するものです。本会が一九八九年及び一九九一年に自然保護施策の視察のために訪れた旧西ドイツでは、ほとんどの学校に学校園としてこのピオトープが設けられており、生徒はいつでも学校の中でその地域のありのままの自然に触れることができるようになっていました。現在、この「ふれあいサンクチュアリ」は、県内の九校の校庭に設けられており、今後も積極的にその

の数が増やされる予定です。

来年度からは、小学校の低学年を対象にして生活科の授業が始まります。この生活科の中の一つの課題として、地域の自然を学ぶことがあげられていますが、この学校園としてのピオトープは、本会の自然の仕組みを学ぶ上で欠かせないものになると思われまます。それは、冒頭でも述べたように、子供達の身のまわりには本会の自然が大変少なくないといえるからです。本会と朝日新聞社浦和支局の主催で、小中学生を対象に「自然保護に関する絵画・ポスター・作文コンクール」を毎年行なっています。が、県内各地の小中学生から寄せられた九千点もの作品を見て気が付くことは、今の子供達がいかに実体験としての自然体験が少なくないかという事です。子供達の絵から本来の自然や自然に対する夢が失われているのです。しかも、年々その傾向が強くなっています。

岩木晃三(財団法人埼玉県野鳥の会)



埼玉の野鳥

都市化のすすむ埼玉にも、武蔵野の雑木林や秩父の山岳地、見沼たんぼ周辺など、野鳥のすみ自然も残っています。

今号の特集である埼玉の野鳥についての資料を紹介します。

【図書】

秋ヶ瀬公園・大久保浄水場周辺における鳥類観察報告 719 埼玉
大学野鳥研究会観察報告集班編
埼玉大学野鳥研究会 82184
浦和市三室のサギ繁殖地における落鳥の実態調査報告書 埼玉県環境部自然保護課 76179
浦和の動物に関する文献について 市川和夫著 浦和市史編さん室 85
(浦和市史調査報告書 第17集 自然編 別刷) (浦) カワセミ 清流に遊ぶ 嶋田忠(撮

影) 平凡社 79

10年間高麗川のカワセミの生態をカメラで追いつづけた著者の写真集。

北本の野鳥 北本市教育委員会 82
(北本市文化財調査報告書 第12集) (浦・熊・川・久)

県民の鳥シラコバト 埼玉県環境部自然保護課 74 (浦・川)

県民の鳥シラコバト調査報告書 埼玉県農林部林務課 67 (浦・熊)

農民の鳥シラコバトの紹介 埼玉県農林部林務課 66 (浦)

越谷自然探訪 越谷市市民生活部環境保全課 89 (浦・熊・川・久)

埼玉県バードサンクチュアリ基礎調査報告書 日本野鳥の会埼玉県支部編 (埼玉県) 84

全国にさきがけて「サンクチュアリ」人と自然とのふれあいの場の整備をすすめている埼玉県が、日本野鳥の会埼玉県支部に委託して行った基礎調査の報告。

埼玉四季の鳥 日本野鳥の会埼玉県支部編 埼玉新聞社 83

豊富な野鳥のカラー写真を中心にした、郷土の野鳥の紹介とバードウォッチングの手引き。

埼玉四季の鳥 日本野鳥の会埼玉県支部編 埼玉新聞社 83

豊富な野鳥のカラー写真を中心にした、郷土の野鳥の紹介とバードウォッチングの手引き。

埼玉四季の鳥 日本野鳥の会埼玉県支部編 埼玉新聞社 83

豊富な野鳥のカラー写真を中心にした、郷土の野鳥の紹介とバードウォッチングの手引き。

埼玉の鳥とけものたち 埼玉県環境部自然保護課 86

鳥獣保護対策のため、昭和57年度から59年度まで行った「野生鳥獣生息調査」の結果を中心に編集したものの。

さいたまバードマップ 埼玉県野鳥の会編 埼玉新聞社 86

狭山丘陵の鳥 萩野豊著 さきたま出版会 80

しらこばと写真集 埼玉翡翠の会 83 (浦・熊・川・久)

しらさぎ 田中徳太郎著 講談社 70

しらさぎの生態を芸術的にとらえて世界的に知られる著者の写真集。

白サギ 田中徳太郎著 東京中日新聞社 61 (浦・熊)

白鷺 天空のファンタジア 田中徳太郎作品集 玄光社 89 (浦・川)

シラサギ記念博物館 シラサギ記念博物館 86 (浦・川)

白サギの詩 田中徳太郎著 岩波書店 82 (岩波グラフィックス3) (浦・熊・川・久)

シラサギの四季 小杉昭光著 法政

シラサギの四季 小杉昭光著 法政

シラサギの四季 小杉昭光著 法政

シラサギの四季 小杉昭光著 法政

シラサギの四季 小杉昭光著 法政

大学出版局 59 (浦・熊)

シラサギの森 田中徳太郎著 あかね書房 72 (科学のアルバム20) (浦・久)

そうかの自然観察ガイド 身近な動物たち 草加市 88 (浦・熊・川・久)

雑木林の野鳥 武蔵野の野鳥観察記 山口正信著 有峰書店新社 81 (浦・熊・川・久)

第43回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」記録集 第43回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」埼玉県実行委員会 89 (浦・熊・川・久)

天然記念物緊急調査報告 越ヶ谷のシラコバト 埼玉県教育委員会 82 (埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書 第3集) (浦・熊・川・久)

所沢市の鳥相 所沢市環境保全調査所沢市 87 (浦・熊・川・久)

戸田市動物ガイド 自然とのふれあい 戸田市立郷土博物館 91 (浦・熊・川・久)

戸田市動物誌 戸田市立郷土博物館 89 (浦・熊・川・久)

日本の生物 通巻40号「特集 狭山丘陵 通巻46号」特集 奥秩父の生物 文二総合出版 90

日本の生物 通巻40号「特集 狭山丘陵 通巻46号」特集 奥秩父の生物 文二総合出版 90

日本の生物 通巻40号「特集 狭山丘陵 通巻46号」特集 奥秩父の生物 文二総合出版 90

日本の生物 通巻40号「特集 狭山丘陵 通巻46号」特集 奥秩父の生物 文二総合出版 90

日本の生物 通巻40号「特集 狭山丘陵 通巻46号」特集 奥秩父の生物 文二総合出版 90

日本の生物 通巻40号「特集 狭山丘陵 通巻46号」特集 奥秩父の生物 文二総合出版 90

日本の生物 通巻40号「特集 狭山丘陵 通巻46号」特集 奥秩父の生物 文二総合出版 90

12月2月の主な催し物

●県立浦和図書館

- 冬休み子ども映画会
 - 12月25日(水) 10時・14時
 - 「雄牛のフェルディナンド」
 - 「ふらいばんじいさん」
 - 「小さなバイキングビッケ」
 - 12月26日(木) 10時・14時
 - 「ミッキーマウスのおたんじょう日パーティー」
 - 「森は生きている」
 - 1月7日(火) 10時・14時
 - 「まえがみ太郎」
- 新春映画会「チャップリン・ミニシアター」
 - 1月10日(金) 14時
 - 「チャップリンの伯爵」
 - 「チャップリンの舞台裏」
 - 「チャップリンの冒険」
 - 秩父の通過儀礼シリーズ上映
 - 2月7日(金) 14時
 - 「安産祈願から帯解きまで」
 - 「子どもザサラから水祝儀まで」
 - 2月14日(金) 14時
 - 「若衆組と龍勢」
 - 「クレ祝儀・モライ祝儀」
 - 「年祝いから先祖供養」

●県立熊谷図書館

- 名作映画鑑賞会
 - 1月11日(土) 10時・14時
 - 「おとうと」
 - 2月1日(土) 10時・14時
 - 「シェーン」
 - 金曜映画会
 - 1月24日(金) 14時
 - 「日光東照宮」
 - 「飛鳥をつくる」
 - 2月14日(金) 14時
 - 「日光道中」
 - 「埼玉の街道を行く」
 - 2月21日(金) 14時
 - 「アンデルセンに生きる」
 - 「馬と祭り」
 - ビデオディスク映画会
 - 1月8日(水) 14時
 - 「わんわん物語」(アニメ)



- ビデオディスク・コンサート
 - 1月17日(金) 14時
 - 歌劇「ラ・ボエーム」
- 県立川越図書館
- 新着フィルム映画会

施設訪問

シラサギ記念自然史博物館

浦和市の東南部にあたる野田を中心とした地域は、かつてシラサギの繁殖地として知られた場所です。そのシラサギがこの地に繁殖地として渡来するようになったのは、江戸時代の中頃といわれており、多いときには四万羽以上の大群が集って来た時代もありました。

しかし、昭和47年頃からはシラサギの姿は見られなくなりました。そこで、サギ山の消滅を惜しみ、昭和60年3月にこの地に建設されたのが、今回紹介する博物館です。



館内に展示されているものは次のとおりです。

1階・2階は、シラサギの世界的写真家、田中徳太郎氏の感動的な写真が多数展示してあります。

3階は、水ノ子島灯台の渡り鳥や、身近な鳥、外国の鳥などが、ありのままの姿で見られます。また、東側のコーナーには、見沼用水の淡水魚が水槽の中を泳いでいます。

4階は、日本の昆虫、世界の昆虫のコーナーで、身近な昆虫、珍しい蝶や甲虫が多数展示してあります。

5階は、多目的ホールで、昆虫や動物などのビデオが見れます。



また、この館では催し物として、見沼たんぼの自然観察会や野草試食会を行っています。来年2月23日(日)には自然観察会が予定されています。ぜひ皆さんも参加してみたいかがですか。

住所 浦和市代山172番地
電話 048-878-0500
開会時間 午前9時～午後5時
休館日 毎週水曜(ただし、祭日にあたる場合は、その翌日。および1/6)

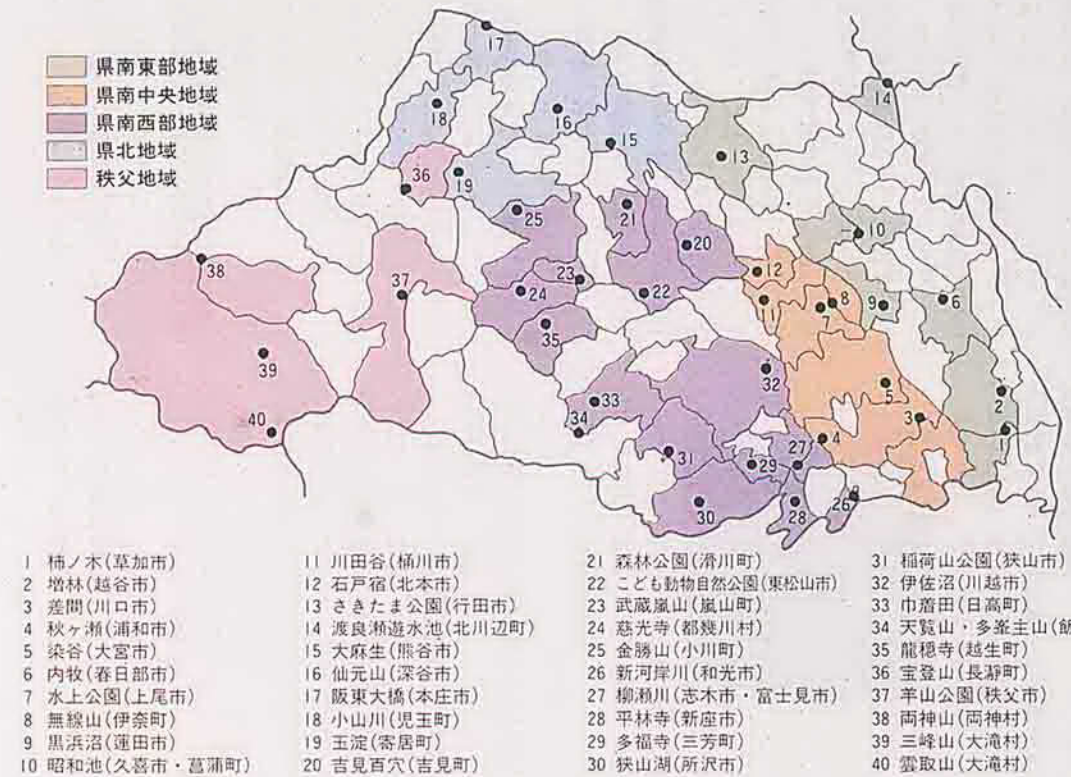
講師 数内正幸氏

- 2月5日(水) 12時・13時30分・15時30分
- 埼玉県立川越図書館集会所
- 定員 30人 1月22日(水)までに同図書館児童奉仕課まで申込・電話可
- 5日講義「伝承あそびから学ぶ」
- 12日実技 おもちゃの創作
- 講師 菅原道彦氏 ※無料です

●県立久喜図書館

- 定例映画会
 - 12月6日(金) 14時
 - 「新材料の世界」
 - 「複合材料からインテリジェント材料へ」
 - 「半導体」
 - 「その仕組みとはたらき」
 - 12月20日(金) 14時
 - 「平安貴族の生活」
 - 「古典文学の背景」
 - 「源氏物語の世界」
 - 「みよし野の里」
 - 伊勢物語
 - 1月10日(金) 14時
 - 「小さなバイキング・ビッケ」
 - 「ピッケと大あざらし」
 - 「フラッシュユクんのほうけん日記」
 - 1月24日(金) 14時
 - 「埼玉の押絵羽子板」
 - 「細川紙の美を渡す」
 - 冬休み子ども映画会
 - 12月26日(木) 10時・14時
 - 「ユニコー魔法の島へ」
 - (原作・手塚治虫)

「バードウォッチング適地位置図」



「ご存じですか」

バードウォッチング

イン 埼玉

野鳥を知るためには、バードウォッチングが最適です。特にむずかしい技術は必要ないので、どなたにでも気軽に始められます。次のような点に注意して、皆さんもトライしてみてください。

- 大きな声・音・動作は、鳥を驚かせるので、鳥が安心できる距離で静かに観察する。
- 双眼鏡は、7～9倍の軽い物が良い。望遠鏡は、遠くにいる鳥をじっくり観察する時に便利で20～40倍の物が良く利用されている。
- 野鳥図鑑は、野外で利用しやすい小型の物が良い。初心者には、掲載数が少なくとも、絵柄が大きいものが良い。
- 観察したことは、出来るだけフィールドノートにつけておく。次回のバードウォッチングに役立つ。
- 服装は、はでな色彩は避け、動きやすいものを選ぶ。

○野鳥を見るのに夢中になって、農耕地に入ったり、草花を折ったりしない。
参考までに、県内の主なバードウォッチング適地位置図を掲げました。お近くの場所が見つかったら、ぜひお出かけ下さい。
(参考文献)

埼玉の鳥とけものたち
埼玉県環境部自然保護課

編集後記

埼玉の「軽井沢」と称した1青年の家。事務室窓際に「メジロ」がミカンを啄みに来る、キビキビとした姿を真近に見て感動したものである。冬鳥「ジョウビタキ」を巻頭で紹介してくださった小杉氏。小さな体で広い海を渡り、少なからず犠牲を払うこの鳥達、季節の到来や飛行の方向、経路等謎を秘めているという。主題は、財団法人埼玉県野鳥の会会長を勤める池谷氏。埼玉県の野鳥の歴史及び自然環境の変化で絶滅や数を減少させた野鳥、環境に適応して分布域を拡大している野鳥等を、また、岩木氏が埼玉県野鳥の会の取り組みについて紹介してくださった。